

特定機能病院 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター広報誌
「OICI だより 2025 年春号」Osaka International Cancer Institute
季刊 ボリューム 18 2025 Spring

Contents

- 2 ページ、患者さん向け「えがおの写真撮影会」を開催しました！
- 3 ページ、第 4 回合同隣がん教室を開催しました。&、大阪城・札幌テレビ塔・沖縄琉球新社がライ
トアップされました！
- 4 ページ上段、第 14 回「一緒に体を動かそう！ フレイル予防の会」を開催！
- 4 ページ下段、センター内のアート作品を入れ替えました
- 5 ページ上段、がん患者さん向けの「がんナビ」のご紹介
- 5 ページ下段、古本募金のお知らせ
- 6 ページ上段、患者サービス向上に向けた取り組み
- 7 ページ上段、大阪 4 大オーケストラによるクラシック音楽会を開催しています
- 7 ページ下段 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 8 ページ上段 寄付者ごほうめい
- 8 ページ下段 ご寄付のお願い

2 ページ

患者さん向け「えがおの写真撮影会」を開催しました。アピアランスケア WG 多田 ゆうま。

2024 年 5 月 29 日の第 1 回に引き続いて、10 月 30 日に当センター 1F 大講堂にて、通院中・入院中
の患者さん・ご家族を対象とした、第 2 回「えがおの写真撮影会」を開催しました。第 1 回（21
組・34 名）を上回る 44 組・58 名の参加者にお越しいただきました。主催いただいたキャンサーフ
ォトプラス代表の西尾さまからコメントを頂いております。

はじめまして。今回主催をさせていただきました、
キャンサーフォトプラス代表の西尾菜美と申します。以前、大阪国際がんセンターで広報誌の作成や、
メディア対応、写真撮影などのお仕事をさせていただいておりました。その際に、患者さんの笑顔を
撮影したことがキッカケとなり、フォトグラファーへ転職し今は独立してスタジオ経営とフォトグ
ラファー（キャンサーフォトセラピスト）として活動をしています。

私が掲げている「写真かける医療」。意外な組み合わせかもしれませんが、笑顔の写真には大きな
力があると信じています。病気の人が笑顔になれるのか、余命宣告を受けた人が笑顔で写真を撮るな
んて遺影じゃないか、とマイナスのイメージも強いかと思います。しかし、私がこの 4 年間がん患者
さんを撮影してきた中で、笑顔が患者さんの気持ちを前向きにしてくれることや、遺された家族の心

の大きな支えになってくれていることを強く実感するようになりました。私のスタジオには全国から患者さんがお越しになりますが、スタジオに来られないような入院患者さんにも笑顔届けたいという思いから、今年の5月より病院内で「えがおの写真撮影会」を開催させていただいています。第1回に続き、第2回も、ご家族総出でお越しになったり、この撮影会のためだけに1時間かけて親子で来られたり、皆さん、いろいろな思いを持って写真撮影に来てくださいました。

また、お父さまと撮影に来られた娘さんから、「こんなキッカケがなければ、父と一緒に写真を撮ることはないまま離れてしまうところでした」と、メッセージも頂きました。この撮影会は、患者さんやご家族にとって前向きになれる大切なイベントだと考えていますので、今後も継続していきたいと思います。多くの方に笑顔の写真を撮ってもらえるように、4月にも開催したいと思いますので、ぜひご参加お待ちしております！「第3回 えがおの写真撮影会」開催予定。4月18日10時から15時、開催場所、当センター1階大講堂

3 ページ

第4回合同膵がん教室を開催しました&大阪城・札幌テレビ塔・沖縄琉球新社がライトアップされました。内科・外科系外来 山田 眞佐美。

当センターでは、2021年より北海道膵がん教室・パンキャンジャパンとともに、「患者・家族へ希望の光を」をテーマに合同膵がん教室&同時ライトアップを開催しています。2024年11月21日の世界膵がんデーに、大阪城、札幌テレビ塔、沖縄琉球新報社が膵がん患者さんの支援色である紫色にライトアップされました。当日は、紫の輝きに祈りと願いを込め、各地域を中継し、その模様を第4回合同膵がん教室で放映しました。

第4回合同膵がん教室は、2024年11月23日にオンライン開催しました。開催にあたり、FM大阪851「U.K とヒロの世のため後のためラジオ」、FMドラマシティ「広田まゆみのイノベーション北海道」のラジオ番組で活動報告をさせていただきました。当日の視聴者は約200名、見逃し配信の再生数は1,000回を超えました。

司会・進行は、膵がん教室代表・肝胆膵内科・膵検診室長の池澤医師とパンキャンジャパン北海道支部事務局長の田辺氏でした。応援メッセージとして、今回の登壇者に加え、大阪府の吉村知事・北海道の鈴木知事からもお言葉を頂きました。松浦総長のごあいさつのあと、肝胆膵内科の高田医師より「膵がんに対する最新の薬物療法」、北海道大学大学病院 医学研究院 消化器外科学教室Ⅱの中村医師より「膵がん外科治療の最前線」、白野看護師より「膵がん術後の看護」、木下理学療法士より「膵がん治療中のリハビリの重要性」についてそれぞれご講演いただきました。特別講演では、大阪重粒子線センター 医長の安西医師より「膵がんに対する重粒子線治療」をお話いただきました。

また、特別企画として、ご家族の闘病を支えた立場から歌手の坂本冬美さまよりお手紙を頂き、プロナウンサーの松本裕子さまに朗読いただきました。その内容を踏まえて、中村医師の進行で池澤医師、高田医師、田中看護師がディスカッションを行いました。手稲溪仁会病院 副院長の安保医師

の閉会言葉のあと、2022年に作成した膝がん教室テーマソング『希望の光』をロック調にアレンジした『希望の光：ナイト de ライト version』でエンディングを迎えました。

当センターの膝がん教室は、多職種が連携して一つのチームとして活動できることが強みです。活動をご支援いただいた全ての皆さまに心より感謝申し上げます。

運営したメンバーの声

- ・リハビリや運動の重要性についてお話しできたことを大変光栄に思います。患者さんやご家族が運動の大切さを少しでも実感し、「自分でも少しずつやってみよう」と感じていただけたなら非常にうれしく思います。今後も皆さまのお力になれるよう、精一杯取り組んでまいります。(理学療法士)
- ・患者さん・ご家族にお伝えしたいことは、心身共に余裕がおありの時に、どのような治療を望んでおられるか、ライフスタイルをどうされたいかをぜひ考えていただきたいということです。私たちは全力でサポートさせていただきます。(看護師)

4 ページ上段

第14回「一緒に体を動かそう！フレイル予防の会」を開催。

看護部摂食栄養管理担当者会・がんリハ委員会

2月27日に、入院患者さんを対象に「一緒に体を動かそう！フレイル予防の会」を開催させていただきました。患者交流棟のルネサンス運動支援センターのご協力のもと『大阪国際がんセンター認定がん専門運動指導士』による椅子に座ったままできる運動を患者さんと一緒に行いました。

運動は、がん患者さんのQOL（生活の質）の向上に有効で、治療を継続していくためにはフレイル予防が重要です。入院中はどうしても活動量が低下してしまいます。患者さんが気軽に参加でき、「これなら自分でもできそう」と感じてもらえることを大切にプログラムしました。

ご参加いただいた患者さんには、笑顔で、ご自分のペースで運動していただくことができ、「楽しかった」「少しずつでも続けたい」とのお声も頂きました。

大阪国際がんセンター認定がん専門運動指導士とは、がんの病態や治療に関する基礎知識に加えて、患者さんの苦痛や悩みをよく理解した上で、がん患者さんのQOL向上に必要な運動の知識・技術を習得する、大阪国際がんセンターが監修したカリキュラムに基づきルネサンス運動支援センターが認定する民間資格のこと。

4 ページ下段

センター内のアート作品を入れ替えました。

当センターでは患者さんの視点に立ったサービスの提供の一環で、癒し（精神的ストレス軽減）となる環境を整えています。

その中で“アートな病院”を目指し、大阪府の協力の下、新病院への移転の際に公募し選ばれた絵画

や『大阪府 20 世紀美術コレクション』のアート作品 106 点を外来および病棟の廊下（特別病室および人間ドックは各部屋 1 点ずつ展示）など多くの場所に展示しています。

空間ごとにコンセプトを設定し、大小さまざまな絵画や写真を展示しておりバラエティに富んでいます。例えば、多くの方が来訪される 2 階および 3 階の外来には「アートストリート」を設け、主要な作家のアート作品を多数展示しています。

このたび、アート作品の入れ替えを行いました（引き続き展示しているアート作品もございます）。カンファレンスルームなどにも展示しておりますので、新しいアート作品をぜひご覧ください。

5 ページ上段。

がん患者さん向けの「がんナビ」のご紹介。

昨年 11 月 23 日に、NPO 法人パンキャンジャパン北海道支部と当センターで開催しました「第 4 回合同膀胱がん教室」におきまして、当センター肝胆膵内科副部長 高田良司が「膀胱がんに対する最新の薬物療法」、リハビリテーション科 理学療法士 木下 翔太が「膀胱がん治療中のリハビリの重要性」と題して講演されました。

このたび、講演のレポートが、がん患者さんとその家族のために、がんの治療や患者さんの日々の生活をナビゲートする Web サイト『がんナビ』*に掲載されました。分かりやすく取り上げられておりますので、ぜひご覧ください。がんナビは、1972 年創刊の総合医療情報誌『日経メディカル』を出版する日経 BP のスタッフが、取材・編集活動を通して 培ってきた、医学・医療情報の収集・整理・分析のノウハウを駆使して運営されています。

5 ページ下段。

古本募金のお知らせ。

「古本募金」では、提携事業者が無料で古本などを引き取り、その査定金額が当センターに寄付されます。ご不要になった対象物品がございましたら、ぜひご利用くださいませ。

古本募金の対象物品。

- ・バーコード、ISBN の付いている書籍
- ・雑誌（月刊誌）、コミックセット
- ・DVD、ブルーレイ
- ・CD アルバム、レコード
- ・ゲームソフト（古くても OK）
- ・スマートフォン、タブレット
- ・切手、葉書、年賀状
（未使用または書き損じ）
- ・図書券、テレフォンカード、金券・商品券
- ・貴金属、金、ジュエリー

- ・ブランド品、時計
- ・カメラ
- ・模型、フィギュア、ブリキのおもちゃ
懐かしのおもちゃ（昭和以前製造）

お問い合わせ先。

つなぐ書店（050-1517-2823）

6 ページ。

患者サービス向上に向けた取り組み。

当センターでは、患者さんのお声に耳を傾けきめ細やかで質の高いサービスを提供するため「患者サービス向上委員会」を設置しており、さまざまな検討や患者さんを対象としたクリスマス会などを開催しています。

また、職員向けの接客研修やあいさつ推進活動、患者満足度・NPS 調査、センター内の見まわりなどを実施し、当センターの理念「患者の視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発」の実現に向け取り組んでいます。

今回は、このような患者サービス向上に向けた取り組みについて、いくつかご紹介いたします。まずは、当センターに計 12 カ所設置しているご意見箱（令和 7 年 3 月より地下 1 階にも設置）へお寄せいただいたご意見などに対して、改善した事例をご紹介します。

飲食スペースにおける改善。

「飲食スペースが少ない」とのお声が寄せられることから、なるべく多数の方にご利用いただけるよう努めております。

皆さまに譲り合ってのご利用をお願いする案内板の設置だけでなく、令和 6 年 11 月より 2 階中央の飲食スペースのレイアウト変更を行い計 22 席から計 32 席へと増設いたしました。

病棟などの療養環境における改善。

バスマットやポットの清潔保持などについてのご意見を頂いてよりできる限り速やかに現状を把握し、関係者との連携により業務手順の見直しなどを行いました。

また職員向けに KYT（危険・予知・トレーニング）などの視点から啓発ポスターを作成し、患者さんとの接触事故の防止などに努めました。

診察までの待ち時間における改善。

医事グループでは院内放送や番号表示板で患者さんに分かりやすく待ち時間をお伝えできるよう、また予約枠の見直しなどによる待ち時間の短縮に努めております。

さらに、委員会と連携するワーキンググループを立ち上げ、患者さんへ検査・診察前の待ち時間のご案内や、検査結果待ち・お一人の診察時間が長い場合にはお声掛けをさせていただいております。次に、患者さんの目線に立つために、当センター職員が心掛けていることについてご紹介いたします。

あいさつ推進活動、研修会。

当センターでは患者さんからのご意見などからあいさつの必要性を実感し、あいさつの日々の実践についてあいさつ推進活動を通して全職員に啓発しています。

また接遇研修ではホスピタリティに優れた施設からさまざまな視点を学んだり、職員間のアサーション（自他を尊重し意見を述べること）から円滑な医療提供を考えたりと、多職種連携の手掛かりとなる研修になりました。

今後も患者さんに安心して気持ち良くお過ごしいただけるよう、当センターでは患者サービス向上に努めてまいります。

7 ページ上段

大阪4大オーケストラによるクラシック音楽会を開催しています。

当センターでは、大手前への移転を契機に、患者さんのがんストレスの軽減を目的として、月に一度、大阪4大オーケストラ（大阪交響楽団・大阪フィルハーモニー交響楽団・関西フィルハーモニー管弦楽団・日本センチュリー交響楽団）によるクラシック音楽会を開催しています。

毎回、さまざまな楽器の編成で、クラシックやポピュラー音楽などバラエティー豊かな曲の演奏や、奏者による楽器紹介や曲の解説も行っています。

来場された入院患者さんからも「前向きな気持ちで治療に向き合う元気を頂きました。」などうれしいお声を多く頂いています。

今後も多くの入院患者さんに楽しんでいただけるよう工夫してまいります。現在、入院患者さん限定とさせていただいています（ご面会や付き添いの方はご入場いただけません）

7 ページ下段

はい、こちら「がん相談支援センター」です。

がん相談支援センター長 池山 晴人。

File18。ご存じですか？ がんピア・サポート。

がんになったとき、

「同じ経験をした人の話を聞きたい」

「治療や生活の不安を分かち合いたい」

そう感じることはありませんか？ そうした思いに寄り添う仕組みとして、「がんピア・サポート」があります。

ピア（Peer）とは「仲間」という意味。がんピア・サポートとは、がんを経験した人が、その経験を生かして他の患者さんやご家族の支えになることです。しかし「支える側」と「支えられる側」が固定されるものではなく、互いに支え合う双方向の関係であることも特徴です。

現在、大阪府ではピア・サポートの体制づくりが進められており、昨年度から「大阪府がん患者サポートセンター」で「がんピア・サポーター養成研修」が始まりました。とはいえ、まだ始まったばかりで、活動の場はこれから広がっていく段階です。

一方、大阪府内のがん診療連携拠点病院では、がん患者さんが語り合える場として「がん患者サロン」や「がん患者会」が開催されています。また、複数の病院が合同で「地域がん患者サロン」を開催することもあり、より多くの患者さんがつながる機会となっています。

ご興味がおありの方は、お近くのがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターにお問い合わせみてください。

「一人で悩まないことが、支えになる」

まずは、がんピア・サポートという言葉を知ることから始めてみませんか？

8 ページ上段

ご寄付について

寄付者ごほうめい 2025年1月1日～2月28日

内藤 裕子様、岡本 守男様、岡島 友春様、程岡 幹之様、行者 信哉様、加藤 順子様、
大原 英彦様、喜屋武 倫子様、山本 隆晴様、山崎 直美様、堂本 久晶様、宮川 毅様、
川口 慎也様、恋中 公彦様、大垣内 良則様、柴谷 大樹様、永野 光世様、小西 啓右様、塚
本 喜左衛門様、足立 洋子様、前田 隆子様、吉本 晴之様、吉本 忠弘様、新居 幸子様、幸
田 真由美様、山本 きよ子様、梅寄 圭吾様、山川 義治様、高山 富士夫様、
木下 大輔様、廣瀬 善香様、村上 央子様、中島 琢也様、大野 真弘様、石野 幸士郎様、
他 匿名者 14 名

このたびもさまざまな個人や法人のかたがたから、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。温かいお心遣いに感謝するとともに、ご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い医療とサービスを提供してまいります。

8 ページ下段

ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たるセンターでありたいと考えています。患者さんの治療環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆様からのご支援をお願いしています。

奥付

オーアイシーアイだより 2025年春号〈季刊〉

特定機能病院／地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局 総務・広報グループ

〒541-8567 大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL 06-6945-1181 (代表)

2025年4月発行

◆電車でご来院の場合

大阪メトロ「たにまち四丁目駅」北改札口から徒歩約5分／京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分

◆バスでご来院の場合

大阪シティバス「大阪城大手前駅」より徒歩4分

◆お車でご来院の場合

東大阪線「ほうえんざか出口」より約5分／東大阪線「森のみや出口」より約8分

【提携駐車場】

- ① エコロパーク大阪府庁駐車場
- ② 谷町筋地下駐車場（入り口は北向き1カ所のみ）

ほじょけんも同伴いただけます

ホームページ <https://oici.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/OICI.jp>

ライン <https://lin.ee/ZOcDHhU>